

97 最初の「フォローアップ研修（研修Ⅰ）」が終わった！そこで見えてきたものは?!

堂本 彰夫

(1) 繰り返すコロナ禍の波！複雑な心境ではあるが、その中で、教えられるものが多々ある?!

もう既に、新しい年が始まって、3週間以上が経つ！折角、昨年末には、件のコロナ禍も下火になり（終息の期待も持てた?）、3月までの年度内で、遅れていた（ほとんど?まともに実施出来なかった）事業や活動（私的なものも含めて!）を取り戻すべく（可能な限りの成果を求めて?）、みんなが頑張ろうと思い始めていた矢先に、今度は、思いもかけないオミクロン株の侵入・猛威によって、新年の目出たさも掻き消された感じのする今日この頃である（特に沖縄は、この事件?の最前戦を強いられている!）。

そんな中、感染者数及び濃厚接触者数の急激な増大によって、保健所の一括対応のさらなる限界、医療／療養体制の新たな逼迫が懸念されているが、本当に複雑な心境ではあるが、そこには教えられるものが多々あるようにも思える?!各々の最前線で頑張っている方々には、大変申し訳ないとは思いますが、今の私には、そちらの方に目が行ってしまうわけであるが、なかでも、想定されていない（or 現在、「しくみ」として出来上がっていない）「各種の（新たな）コーディネート／マッチング」の必要性というものに、大いに気づかされるのである！

すなわち、そこには、予算の追加（上乘せ）や人員の増加（他所からの支援も含めて!）だけでは、どうしようもないものがあるということであるが（もちろん、それによって、大いに軽減されるものもある!）、実は、それは、我が「教育協働」の取り組みにおいても、まったく同じことが言えるのではないかということでもある?!例えば、個別の事例や場面については、残念ながら、詳しくは覚えていないが（メモもしていない!）、一言で言うと、突然、あるいは徐々に露になってくる様々な「禍」、「不都合」に対して、「日常の関係」（隣人や友人・知人、あるいは取り引き先や来客等）の中で解決出来ることがある!あるいは、「地域全体」で解決出来ることがある!そういうことへの眼差し、そのことを実感させる取り組みの発見である！

具体的には、生乳の廃棄の危機の際に、マスコミ報道等もあって、通常の出荷先ではない、別の所（地元の学校等?）に届けることが出来て、結局は、棄てずに済んだ（全部かどうかは分からないが?）という話や、ある地域（天草?）で、コロナ禍によって休業や休職／退職を余儀なくされた人に対して、一時的な?仕事の斡旋や働く場所の仲介?をしたという女性の話などは、緊急時（想定外の事態）におけるコーディネート／マッチング、そして、そのネットワーク構築の重要性を示すものである（これらは、「SDGs」への対応ということにもなる?）!

要は、誰でも良い!どこからでもよい!一人の人間のとっさの判断（ひらめき?）による「コーディネート／マッチング」の動き、そして、そこから生まれる、通常ではない「ネットワーク」の形成!ここが重要なのであり、ひいては、これが、「コロナ禍下」という特別な状況のものではなく、普通に、他の場面においても、同じように求められるのではないかということである?!今、必要なのは、こうした思いやアクションの、言わば「必要に応じた」結集であり、人と人とのつながりづくりなのではないかということである?!

(2) 改めて、そこで、「教育協働」に関わって教えられるものとは何か?

さて、そんなこと思いつつ、過日（14日）、県教委主催という形の「沖縄県社会教育主事有資格者フォローアップ研修（「研修Ⅰ」）」が行われた。これは、「社会教育主事有資格者として必要な専門的知識・技能の向上に向けた研修を実施し、①県・市町村等において指導的役割が期待される、社会教育主事有資格者としての力量を高める。②相互のネットワークを構築し、情報を共有する。」ことを目的とするもので、今回が、確か3回目となる。その立ち上げから協力（プッシュ?）してきた私であるが、昨年と同様、件のコロナ禍によって実施が危ぶまれたが、オンライン形式でということで、今年も実現できた!しかも、目的にある「ネットワークの構築」ということでは、年に一度の実施よりは、たとえ2回であっても、より可能性が高まるということで、今月と来月の複数回実施ということになっているということである!

県教委の当初計画にはなかった（予算措置がされていなかった?）ということで、担当者には、本音を言うと?何もそこまでしてという思いがあったとは思われるが、曲がりなりにも出来たのである!参加者（12名）も、全員ではなかったかもしれないが、素直に喜んでいたように思う?!ちなみに、2月の分（「研修Ⅱ」）は、以前にも紹介したかと思うが、その期間に行われる「国社研の社会教育主事講習B」のプログラム（「演習」）と連動した形で行うことになっており、より広がった形の「ネットワークづくり」が見込めるということである!

ということで、今回、ここで、改めて主張したいことは、端的に、「〇〇だから出来ない!〇〇だから、しない／諦める!」ではなく、たとえ〇〇ではあっても、「どうしたら、それが出来るようになるか?そのためには、何が必要か?」、そういった視点（と言うよりは「思い、意欲」?）、そのための協力体制（態勢?）への動き出しが重要だということである!しかも、そこで、もう一つ重要なことは（実は、ここが、さらに重要なのだが!）、そこから転じて、そうしたことを可能にする力（権限?）が、県教委（センター）にはあるということであり、それに乗かって?、各地域（市町村域）の多くの関係者／心ある人達が力を合わせて、必要な動きやしくみを創り

出していこうとすることが重要だということである！

そこで、改めて、「教育協働」に関わって教えられるものとは何か？単に、長引くコロナ禍の脅威にだけ振り回されるのは、私にしてみれば、甚だ癪でもあるので（こういうことが言えるのも、私が、気楽な毎日を送ることが出来ているからではあるが？）、逆に、そこから教えられる（た）ものという形で、いくつかピックアップすると、先に挙げたように、生乳廃棄の危機の脱出とか、ある地域での一時？離職者の仕事の仲介／斡旋、すなわち、そうした緊急時（想定外の事態）のコーディネート／マッチング、そして、ネットワーク構築の必要性ということであるが、そのことは、そっくりそのまま、ここでの「教育協働」の場面で通用するということである？！

例えば、小中学校で分散登校（にせざるを得ない時）における公民館（何も公民館に限る必要はないが！）の活用（オンラインによる授業協力）、あるいは、そうした「オンラインによる授業」に協力できる人やシステムの発掘や開発、そこで生まれるネットワークの維持や活用といった具合である！それこそ、例のCSや地域学校協働本部を立ち上げているところは、そうしたことが機動的に出来るはずである（既に、実行しているところもある？）？！現在、残念ながら（ある意味仕方ないが？）、この間のコロナ禍によって、予定されている？会議の開催や活動の停滞（休止？）が顕著となっているが（少なくとも私が関わっている、CS実施校ではそうである！）、何とか（まさに、この逆境を逆手に取って？）動き出せないものかと期待しているが、そういうことにはなっていない？！

(3) 「フォローアップ研修」が、今後の「教育協働」の成否を握っている？！

ところで、もう一つ、今回、改めて（実は大いに？）実感したのは、やはり「発令社会教育主事」と、そうでない「有資格者」（「社会教育士」と名乗っていようといまいと！）とでは、この研修（→相互のネットワークづくり）の意味合い（自分にとってのメリット！）が異なってくるということである！つまり、そうでない有資格者といっても、パーマネントな就業者（正規の行政職員や教員等）と、そうではない就業者（指定管理者となっている事業体のスタッフや「社会教育指導員」／各種の「〇〇コーディネーター」等の非常勤職員）とでは、まったく違う様相があるということである！事実、今回の研修で流された「事例発表動画」に対して、自分（達）には、まったく意味がないというような感想を述べた参加者もいた！

多少の違和感を醸し出したその発言ではあったが、私は、そのことはよく理解できるので、今後の話題として扱うことを提案して、その時は、それなりに事なきを得たが、まさに、この問題提起（不平・不満？）は、発令社会教育主事及びそれに相当する職員と任意の社会教育士の名乗りだけで関わる人達の間に横たわる、ある意味由々しき問題構図（溝？）だということでもある？！

したがって、例えば、「社会」が（とは言っても、実質的には「行政」がということになるが！）、発令社会教育主事と同じように、そうでない社会教育士の活躍（参画／協力）が必要であり、そのことを期待するのであれば、彼らの生活の保障（身分の安定？）が、一方で必要であるということである！しかも、そこで、もしそれを、「行政」が出来ないなら（今の状況／枠組みでは、基本的には出来ない？）、民間的立場や非常勤の人達自らが、そのしくみ・形を創っていくしかない？そう思っているということでもある！

何故ならば、行政は、自らが全部やることは出来ない（そのための要員や予算もない！）！言い換えれば、民間や非常勤の人達の力を借りなければ、それを成就できない！さらには、行政は、首長の交代や各部署の人事異動等があり、そのことを、持続的・安定的に責任をもって遂行できないという隘路（もちろん、メリットも、一方である？）を有している！そのこともはっきりしてきたので、後は、それらを踏まえて、どのようなしくみ・形を創ればよいのかということになるわけである？！そのきっかけづくりとなるのが、「フォローアップ研修」であり、だから、そこから生まれる可能性を大いに大切にすべきであるということになる？！

なお、こうしたきっかけづくり、ネットワークの構築に、既存の「社会教育主事協会」や「公民館主事協会」、あるいは「社会教育指導員協会」等が、どのように関わって（加わって？）くるのかであるが、それこそ、ここで言う「行政（県教委）」が、何とかしなければいけないのである？！ただし、これも、繰り返してきたように、現実には、かなり厳しいと言わざるを得ない（しかも、一方で、それらの協会自体が、存続の危機にある？）？！

だが、そこを乗り越えていかなければ、折角の「社会教育士」の活躍・参画は、個人レベルでのそれにしかならない？そして、それが出来る人と出来ない人に二分される？そういうことであるが、そうした拙い二極分化は、結果として、もう一方の発令社会教育主事の存在意義を低めることにもなる？！そういう状況にあるわけでもある？！とにかく、やりたい人、やらなければいけないと思っている人達が、結局は出来ない人にもなるということが惜しい（悔しい？）のであり、その地域、引いては、社会全体の損失にもなるのである？！その意味で、この「フォローアップ研修」は、そうした未来？を、期せずして背負わされているわけでもある？！

そこで、最後に、改めて言うが、「社会教育主事有資格者としての力量を高める」研修を行うということは、発令社会教育主事、あるいはそれに相当する関係職員の研修という枠組みを越えた研修だということであり、別途意図されている？「社会教育士」の養成と研修機能が、そこに加わっているということである！そこでは、新たな県行政（教委）の役割が企図されているということでもある！ならば、「フォローアップ研修」は、今後の「教育協働」の成否を握っている？！そのようにも言えるのである？！